

光栄の森

2020年11月 毎月1日発行 第147号
発行者 光栄プロテック 申川

11月に向けて

代表取締役 三田雅憲

朝夕が少し寒くなってきており、咳こむ諸君もおられますが、身体に気を付けて新年まであと2ヶ月どうぞよろしくお祈りいたします。

先般10月14日（水）に千葉県白井市名内の白井第2工場用土地の取得契約を終え、さらに風雨ふきすさぶ中でありましたが、10月17日（土）には麻賀多神社の神主様を迎えて、工務店さん、設備屋さん、当社管理職4名と私とで地鎮祭の祭典を無事に終えることが出来ました。

又、新規工場建設に伴う人材採用に関しても、千葉で2名、本社で4名のご縁を頂くことができました。2名の退社がありましたので純増員としては4名ですが、この厳しい時期にいろいろな想いの中、入社して頂いた諸君に感謝しながら、共に技術者として切磋琢磨して成長していただけています。厳しさを体験せねば感謝の気持ちは湧いてこないと言われるかもしれませんが、コロナ禍の厳しさ中においても、仕事が比較的順調に入っていることに感謝して頑張りたいと思います。

今回は新しく当社に入社された方と、まだ入社しても何をどうしたら良いか迷われている方、故野村克也監督の一文をご紹介します。

「若いときに流さなかった汗は年老いて涙に変わる」

若い時にどれだけ汗をかいたか、つまりどれだけ努力したか。この結果は将来、年老いてからわかることになる。もし、自由気ままに楽しんで若い頃を過ごしていたら、歳をとってから苦勞することになるだろう。年齢を重ねてから涙を流すことになるという訳だ。プロ野球選手になってもいつクビになるかわからない。クビを宣告されてから「もっとしっかりやっていたら良かった。」「練習しておけば良かった。」と後悔する選手を私は何人も見てきた。すでに書いてきたように、若いうちから将来のために勉強して備えることは、本当に重要だと言わざるを得ない。若い人達が、頑張れない・努力できない理由に「目標を持ってない」「モチベーションを保てない」という理由があるだろう。私は貧乏な家庭で育ったこともあり、「お金を稼いで貧乏から抜け出したい」「女手ひとつで育ててくれた母親に楽をさせてやりたい」という気持ちが強くあった。

野球を始めたのもこの大きなモチベーションがあったからだ。プロ入りして活躍し始めると、様々な誘惑がある。夜は繁華街に繰り出して飲み歩いたり、綺麗なお姉ちゃんのいるお店に行ったりと、徐々に遊びを覚えていくのだ。私も先輩に誘われて一緒に行ったことがある。もちろん楽しい世界だし息抜きにもなる。毎日同じ練習の繰り返しだが、バカバカしくなってきたその世界に浸っていた時期もある。しかし、私は毎日バットを振ることだけはやめなかった。元々、テスト生として始まった選手生活だ。入団経緯もブルペンキャッチャーから何とか選手登録してもらい、本当にギリギリだった。もし手を抜いて遊び歩いてしまえば、あっという間に他の選手にポジションを奪われてしまうだろう。だから毎日素振りを繰り返した。練習後一人になっても素振りを続けた。同じように素振りを毎日欠かさずしていたというのが張本だ。張本は「素振りをするのが睡眠安定剤になる」と言っていたほど、毎日必ず素振りをしていたという。このくらいの努力をしなければ打てる選手にはなれないってことだ。若い時に楽をして、本当にいいのか。もう一度立ち止まって考えて欲しい。私は若い時に汗をかくことを止めなかった。バットを振り続けたし、50歳まで現役でいることを目指してひたすら野球と向き合い続けてきた。そうやって歯を食いしばった時代があるから今がある。この歳になっても幸いなことに野球の仕事が続けられている。今流しているその汗が将来老いた時の涙を防いでくれる。そう信じて今日も汗を流してほしい。

と述べられています。若い頃（20代～30代）に誠心誠意仕事に向き合うことの大切さを述べられたのだと感じます。仕事自身は、最初から面白いということはあり得なく特にスタートは厳しいものです。当然その厳しさに耐えて、むしろそこから仕事の面白さを自分で見つけて、コツコツとやるのが、自分にとっても、会社や社会にとっても大切なことなのだと思います。新しく当社に入社された方々は、そのあたりを理解されて頑張ってください。